

## 第7回 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議〔全体会〕

- 1 日 時 平成27年10月26日（月）15：30～17：30
- 2 場 所 ハピネスふくちやま 3階 会議室2
- 3 参加者 委 員 14人  
事務局 3人

### 事務局報告

- 人口ビジョン説明
- 総合戦略説明
- 最重点事業の体系図説明

（委 員）福知山市の産業マップも必要ではないか。

（副市長）必要性はあると思うので、検討する。農林業や製造業などリンクする部分が出てくるのであれば、活用できると思う。

（委 員）なぜ福知山が「海の京都」に入っているのか。

（副市長）綾部と福知山は北部7市街の中にあって、その中で海がメイン。福知山自体には海はないが、海の恩恵を受けている、海にアプローチしている意味で無縁ではない。

（委 員）海がないのであれば福知山は、秋の雲海をもっとPRするべきでは。

（副市長）そのシナリオを作らなければならない。「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」を売り出そうとする京都府の施策があり、「森の京都」に大江地域、夜久野地域を入れようとしているところ。森の京都の福知山のメインテーマは大江山である。私も3週間前雲海を鬼嶽稲荷神社にて見に行った。10月11月が見頃であるので来年度に向けた取り組みが必要。夜久野にも宝山にも雲海がみられる。観光資源になり得る。

（委 員）三和でも雲海をみられるとのことであるが、その場所は手入れされていない。

- (委員) この会議に出席し、更に地元に興味を沸かした。いろいろな委員の皆さんと知り合えて刺激があった。  
もう少し勉強して貢献できる人にならないといけないと感じた。
- (委員) 以前市の仕事に携わってきて、現在農業の立場で参加させていただいた。福知山の財産は人材も含めて豊富である。それをうまく活用し、行政がヨコの連携やつなぎ役となることを期待したい。こちらでも継続して役割を全うしたい。また、京都府の事業もあるので連携してやっていただきたい。
- (委員) 福知山市におけるパワーオンネットの位置付けは非常に重要と認識しており、責任も痛感している。パワーオンネットで地域産業になりそうなものとして、防災製品の防災ベストの開発を進めている。開発に時間もかかるし、販売につながるような取り組みも必要である。例えば防災ベストを市が買い取る、テストをする段階で補助金をだしてもらいなどの支援があれば進めやすいのではないかと。また、市、府、経産省を通じて取り組みができる方向、大学と連携するなど積極的に取り組みたい。P25 産学連携件数 31年度が7件とあるが、市との連携のみとの件数か。それともその他、府・経産省も含めた行政機関との連携か。
- (事務局) 市との連携数を想定している。
- (委員) 観光協会として海の京都の取り組みに注力している。観光の振興には、市民や他の事業者、団体等との連携との必要性を感じる。それぞれが一方向で総合戦略の推進には具体的な取り組みを継続して行わなければならないし、市民の皆さんに認知していただくことも必要であると思う。
- (事務局) 行政で取り組むべきものだけでなく幅広いセクションで取り組んでいくべきものを集めた形になっている。
- (委員) 若者の雇用が論点になろうかと思う。雇用の改善は図られているもののミスマッチが起こっている現状を何とかしなければならない。福知山市の北近畿における中心性は揺るがない。(経済・雇用の面で)女性の活躍など雇用状況の改善、近隣市町の先頭に立って施策を展開されたい。
- (委員) 農村振興をテーマにしている。農林業や移住定住を戦略に盛り込んでおられるので施策展開に期待したい。具体的に農家民泊や農村体験などを通じて都市圏からの交流を促進できればよいのではないかと。地域資源をお金に換えられる仕組みがあれば継続した交流につながる

る。ひとをクローズアップした戦略が必要と感じる。(ひとの魅力やひととの交流、人に会いに行く等)

- (委員) 子育て関連の意見やまた、市外からの立場で意見を述べさせていただいた。これからも福知山市で仕事やボランティアで活動する。
- (委員) 人の流れをつくることが一番大事である。JR 福知山線の複線化を重要視したい。京阪神から福知山市へ通勤してもらうためには必須である。公立大学や工芸繊維大学を活用して住みよいまちをつくることが可能である。北近畿の中心はやはり福知山市であるので他市町を引っ張ってもらいたい。
- (委員) 今やっていることが一番大事である。姫路から福知山に移住したいという人がいた。その人は漆で日本の文化財を守るという目的であった。一生懸命やっていたら人は集まる。戦略を絵に描いた餅にしないようにしたい。
- (委員) 観光とメディアの立場で参加させていただいた。今後、取り組みを継続することが大事である。誰のための事業なのか。地域住民である。地域住民に分かりやすい情報になって届かないと自分のものにはなっていない。ターゲットを定めてわかりやすく伝えなければならない。ターゲットは誰で、ターゲットがどんな情報を欲しているのか。森の京都もこれから進んでいくが、雲海のことについても地域の皆さんと一緒に取り組みが必要ではないか。地域の皆様の大切にされているものをほんの少しおすそわけの観光を。おすそわけの内容、観光客がどんなものを欲しがっているのか、考えていって欲しい。
- (委員) 職員の努力によって戦略はよくまとまっている。これをいかに実行するかが、最大のテーマである。  
感心したのは総合戦略のアフターケアの会議があることはいい。今まではなかった。やりっぱなしはよくない。  
今、気になっているのは移住定住である。空き家バンクが全く機能していない。地域に活かす、地域事情に合った方法があるはずである。賃貸のニーズも多いのでその辺も含め、早急に何とかしないといけない。
- (委員) 人口ビジョンについては、定住人口のみ視点を充てたものになっている。昼間交流人口こそが大事ではないか。そういう視点から人口を語ってほしい。  
観光施策については、日本国民が国内を移動する回数は3億回(日帰り含む)、人口の2倍近くの人が動いている。

日本国民を福知山に来させる施策が大事、インバウンドよりも関西の人に北近畿の良さを知らせるべき。

総合戦略のコンセプトが分かるキャッチフレーズが必要ではないか。  
(市民にわかり易いように)

(委員) 福知山市は皆さんの議論を丁寧に拾われて戦略をつくられた。この地域に新しい価値観を生まなければならない。4つの基本目標毎に数値目標を求められるかもしれない。見直しの際に検討をしてはいいかがか。

(委員) 事業所減(3年間で10%減)に危機感を持っている。創業セミナーにも19件の応募があった。教育ローンも扱っているので都会の店舗にも公立大学のポスターやチラシを置くことは可能である。  
創業、教育ローンに力を入れたい

(委員) 農家民宿の視点で意見を述べてきた。三和地域協議会でも移住・定住、空き家について、計画は立派だが、実行する現場はすごく大変である。あらゆる協力が必要である。最重点事業のうち5つがまちづくり推進課の担当となっている。ボリューム的に絶対無理ではないか。是非来年からは増員をお願いしたい。

(副市長) 実践者の方からアドバイスをいただきました。

ファーストステージの絵ができたので、セカンドステージの実行段階である。最重点事業については、一つひとつ動くようにしたい。委員の皆様には伴走者として良いプロジェクトをものになるようにこれからもお願いしたい。

移住定住など組織についても考える余地は十分ある。空き家対策についても行政が見えていないことがある。ご指摘をいただきながらシステムを構築していきたい。

昼間人口も1.05で4~5千人多い。波及効果も加味したい。

公立大学についても十分活用しなければならない。地域に根付いた産業とも結び付けたい。

鉄道の複線化も継続した取り組みが必要であると認識している。高速バスも利便性が高まっている。

フォローアップの会議もお世話になりたい。